

# 令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

## 第3学年【国語】

### 1. 実態の分析

- 「読むこと」：説明文の学習後、要点を捉えて、分かったこと書きまとめることができる児童は7割弱である。また、物語文の学習において、登場人物の気持ちを読み取り自分の考えを書きまとめる活動では、支援を要する児童が2割弱程度いる。
- 「言語事項」：既習の漢字を書くことに関しては達成率が70%であった。学習した直後のワークテストでは、満点を取る児童が2割に留まっている。
- 「書くこと」については、自分の考えを自分の言葉で表現する力が不十分である。また、文のつながりや「はじめ」、「中」、「終わり」のまとまりに注意しながら文章を書くことに課題がある。
- 既習の漢字や第3学年の新出漢字の定着が不十分である。

### 2. 改善策

- ペア学習で考えを交流し合ったり、選択肢から自分の考えに近いものを選ばせたりする活動を取り入れ、友達の影響や選択肢を参考にして考えを書きまとめられるようにする。
  - 「書くこと」については、一人一人の定着度を把握し、短い文章を書くことから指導することで、基礎基本の定着を図る。書きたい内容を「はじめ」、「中」、「終わり」の段落構成にするように構成メモを作成し、自分の体験したことを書けるようにする。
  - 学習の流れが分かるように、計画的な板書を心掛けるとともに、ノート指導を行っていく。
  - 週に一度漢字ミニテストを行い、間違えた漢字を繰り返し練習させ、定着を図る。
- <改善策に対する検証>
- テーマを決め、「はじめ」、「中」、「終わり」の構成で400字程度の文章を書ける児童を8割以上にする。
  - 学期末のワークテストで、平均点を90点以上にする。

## 第3学年【算数】

### 1. 実態の分析

- 「知識・理解」：ワークテストの平均正答率は90%弱となっており、おおむね定着している。
- 「技能」：ワークテストの平均正答率は90%であった。単元別に見ると、「時こくと時間のもともめ方」では、平均正答率は80%であった。ある時刻の「何分後」や「何分前」を求めることに課題がある。
- 「数学的な考え方」：テストの平均正答率は80%となっており、おおむね定着していると考えられる。
- 時刻と時間の違いが理解できていない。また、「時」、「分」の単位変換に課題がある。
- 繰り上がり、繰り下がりのあるたし算やひき算、九九など既習の内容の定着が不十分である。

### 2. 改善策

- 前時や既習の内容を振り返る時間を設けることで、見直しをもって課題解決に取り組めるようにする。そのために、考える時間を確保し、具体物やICTを活用することで自分の考えをもたせやすくする。
  - ワークテストの結果を受け、習熟が不十分であった単元については、ドリル等で復習をさせる。
  - マスマスタイムで、一人一人の計算の技能の達成度を把握し、反復学習により定着を図る。
- <改善策に対する検証>
- 学期末のワークテストで、「知識・理解」、「技能」、「数学的な考え方」全てで平均点を90点以上

# 令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

にする。